



みなとオアシス宇野

玉野市産業振興部商工観光課主査
森健介



宇野港の概要

宇野港は明治以来、本州と四国を結ぶ海上交通の要衝として、また造船の町として発展してきました。しかし、昭和63年の瀬戸大橋開通に伴い、宇高連絡船が廃止されるなど、交通体系が大きく変化し、その海上交通の拠点性が低下しました。

このため、宇野港の港湾機能の見直しを図るべく、平成6年度から人の流れのある港、人流港として宇野港再開発事業が進められてきました。そして、平成18年には西日本最大級の大型客船バースが完成し、一般公募により「クルーズポート・ウノ」の愛称がつけられました。また、周辺の緑地整備なども進み、宇野港は、その機能、魅力ともに格段に向上しています。

みなとオアシス宇野の概要

平成16年6月に市民を中心に「みなとオアシス宇野」を立ち上げ、一般公募で集まったメンバーを中心にワークショップ方式で話し合ったり、企画クルーズを実施したりして活動してきました。また、グループのマスコットキャラクターについても、アイデアを公募し、イベントでのアンケート投票により決定されました。

このような中、平成20年5月には、玉野商工会議所を運営団体として「みなとオアシス」に正式登録され、宇野港第一突堤内にある産業振興ビルを情報発信拠点として、交流スペースや、情報コーナーを設置しています。

緑地の整備も順調に進んでおり、今後は、大型客船バースなど豊富な港湾施設を活用し、瀬戸内の観光拠点として賑わいのあるまちづくりを進めるため、各種市民団体と連携しながら広く参加市民を募り、市民参加型ワークショップや島嶼部との連携による企画クルーズ、既存イベントのクルー



登録証交付式の様子



マスコットキャラクター
うのっち



みなとオアシス宇野



上空から見た宇野港

ジングでのボランティアガイドなどを行い、宇野港周辺の賑わいを創出していくよう活動していきます。

“海・港・船”がテーマの楽しいお祭り！！

玉野市で毎年5月に行われている「たまの・港フェスティバル」が今年も5月17日～18日にかけて、宇野港を中心に開催されました。フェスティバルのオープニングセレモニーの中で「みなとオアシス宇野」の登録証交付式が行われ、多数の来場者とともに新たなみなとオアシスの誕生を祝いました。フェスティバルでは、練習船「海王丸」や護衛艦「やまゆき」などが一般公開され、多くの市民で賑わいました。今後も、こうしたイベントを利用した賑わい創出活動などを行い、みなとオアシスが中心となって、元気で賑わいのあるみなとまちづくりを進めていきます。



大型客船バース（クルーズポート・ウノ）

